

授業力を高める入力と出力 教師への共感・信頼を築くために

連載⑨

大阪教育サークルはやし 荒井 賢一

「43年前、小学四年生だった荒井先生は、国語の漢字や社会の地名などの覚える勉強は苦手嫌いでした。でも、あれこれ考える算数は好きで得意でした。前に出て、問題の解き方をみんなに教えるのが楽しくて、先生になろうと思ったのです。みなさんと分かること・できることをいっぱい増やして、一緒に賢く、そして、仲よくなっていきたいです。よろしくお願ひします。」

今年度、四・五・六年の算数担当となった。右は、四年生への最初の挨拶である。

- ① 短く話す。
- ② 親近感を持ってもらう。
- ③ からめる。

子どもたちにとって、初めて会う教師(大人)は、怖い存在でもある。

それゆえ、親近感を持ってもらえるような話をする。自分の好き嫌いを語ることで、共感を作り出すことができる。

佐藤尚之『ファンベース』支持され、愛され、長く売れ続けるために』(筑摩書房)には、「ファンを大切にし、ファンをベース(土台)にして、中長期的に売上や価値を上げていく考え方」が書かれている。これは、学級経営で、教師のファンを大切にする上での参考になりそうだ。

ファンの支持を強くするために、次の三つをすればいいそうである。

- ① 共感を強くする
ファンの言葉を聞き、共感ポイントを知り、それを強化する。
- ② 愛着を強くする
企業や商品のストーリーをファンに伝えようとする。
- ③ 信頼を強くする
信用されない要素を消し、ちゃんとしている部分を見せる。

どれも、教師と子どもたちとの関係に当てはめられそうである。

ただ、共感と愛着を強くすることはできても、信頼を強くするには時間がかかる。何より、日々の授業を通して、できる・分かるを生み出していく必要がある。

- ① できる。
 - ② 分かる。
- できる↓分かる。この順が大切である。体育は明快である。

跳び箱が跳べた。逆立ちができた。

どうすれば跳び箱が跳べて、どうすれば逆立ちができるのか、それが先に分かっている必要はない。

算数も体育と同じでいいのだ。

とにかく問題が解ける。できる。テストの点数が取れる。

できるように教えてくれる先生を子どもたちは、教師として信頼してくれる。

しかし、問題解決型で、まずは、子どもたちに分かせてから進めようとする、いくつかの綻びが生まれる。

分らない子が自信をなくし、できることが後回し、子ども任せになり、できない子を量産さえしてしまう。

優先すべきことを間違えないでほしい。

授業プラン 「合同な四角形を描くために」

「定規とコンパスを用意します。次の三角形をノートにかきます。」

【板書】 辺の長さ3 cm、5 cm、6 cmの三角形
「かけたら持つてきなさい。」

【板書】 辺の長さが5 cm、7 cm、3 cm、
4 cmの四角形

トレーシングペーパーに、上記の三角形をかいておき、○つけをしていく。

○をもらった子には、上記の四角形をかかせておく。

「四角形がかけた子は、他の子と合同な四角形になっているか比べてもらん。」

三角形の作図が全員合格した後、

「四角形がかけている人は、立ちましよう。周りの人に自分の四角形を見せてもらん。合同な四角形になっていきますか。」
・ ぜんぜんちがう。

【板書】 (上記の四角形の1つをかく。頂点A B C Dと各辺の長さも書き込む。)

「四つの辺の長さが分かっても合同な四角形はかけません。では、あとどこが分かれば、合同な四角形がかけますか。」
となりの子と話し合わせ、列指名と挙手

指名で発表させる。

- ・ 四つの角の角度が分かればいい。
- ・ 対角線の長さが分かればいい。
- ・ 1つの角度が分かればかける。
- ・ 条件の少ない物から確かめましよう。」

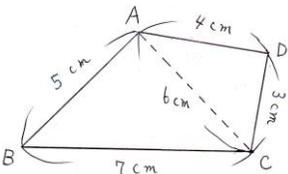
【板書】 対角線A Cの長さ：6 cm

「対角線A Cの長さが6 cmの四角形がかけた人は立ちます。」

立った同士で答え合わせをさせていく。

4つの辺の長さとは対角線の長さが分かれば、合同な四角形はかけることを確認する。

1人指名し、その子のかく手順通りに、左の四角形を教師が作図する。



(板書用の定規やコンパスは

扱いづらなので、教師がした方がよい。)

「なぜ、対角線の長さが分かるとかけるのでしょうか。」

・ 対角線が分かれば三角形と同じだから。

・ 3つの辺の長さが分かれば、合同な三角形はかけるから。

「今度は対角線の長さは分かりません。でも1つの角度だけ分かっています。」

【板書】 角Bの角度：60度

「角Bの角度が60度の四角形がかけた人は立ちます。」

立った同士で答え合わせをさせていく。4つの辺の

長さと1つの角度が分かれば、合同な四角形はかける

ことを確認する。

1人指名し、その子の

かく手順通りに、上記の四角形を教師が作図する。

(定規・分度器・コンパスが必要。)

「なぜ、1つの角度が分かるとかけるのでしょうか。」

・ 2つの辺の長さとその間の角の角度が分かると合同な三角形になるから。

・ 対角線A Cが分かったら、三角形A C Dもかけるから。

【教科書 28 ページの4】に四角形と合同な四角形はかけるのでしょうか。」

この四角形は、2つの辺の長さと、3つの角の大きさが分かっている。かけた子からノートを持ってこさせ、教師が○つけ。(定規と分度器のみで作図できる。)

